

磐城時報

七日刊
編輯部 石城郡平野町
印刷部 石城郡平野町
發行部 石城郡平野町
電話 磐城時報社
石城郡平野町
電話 磐城時報社
電話 磐城時報社

寂しいなわらも

平町に歳末気分

平町は銀行の休業に崇られ、居るが、それでも一日と淋しいながらも歳末の気分が漂って来た。商店の装飾窓には歳暮の贈答品が飾られ、歳暮大賣出しの看板が市内の各所に見受けられる様になつて来た。平署では御大典の取締に全力を注いで来たのが大抵此の取締も終つたので今度は歳末の取締に當る事となり目下それを取り締り方針を考究中である。例年歳末になるとコン泥が多くなるので、これが取締を嚴重にする事は勿論だが最近自動車の交通が頻繁になつて来て交通事故が頻出するので歳末や新年には道路の使用が多くなり道幅が狭くなる上に出で難路を極める事とて今までより以上交通事故も頻発するものと見られる。土木監督所とも打合せをなし、路の使用を制限し同時に自動車その他乗り物に對しても注意をなし事故を防止する方針である。

夜逃げ休業等續出し

平税務署手を焼く

平銀行の休業から平町の營業收を期し創立發會式を平町第二小益税の納税が平税務署管内に於て學校に於て舉行したが總集會はける最大不成績を示したことは郡内五方面に別れて開催する事既に報の如くであるが、平税務署となり平町外二十ヶ町村第三方面では去る三日から未納整理をなすべく署員を派し督促して来たから平町平館に於いて開催協議事項について案議した後教育活動寫真を開催する希望であること對し五日間の猶豫を興へることになりそれ〴〵督促をなした結果二十余名の約半數たる十數名は夜逃げや移轉等をなして行方不明となつたので同署では整理上非常に困つてゐると。

阿部乙三郎翁逝

町有志阿部政右衛門氏嚴父乙三郎翁は過般來胃腸を病み東京南病院に入院加療中の處四日午後一時永眠、遺骨は五日夜驛頭の多數の出迎へを受けて到着した葬儀は九日午後一時播磨小路の自宅出棺、長橋町性源寺において執行する。

各方面に分れ

女子青年總會

石城郡聯合女子青年團は御大典の創立に係り現在二千二百余名の會員を有して有力なる會社の右傾團體として常に會社擁護の活動をなしつゝあり過般來自治會より創刊號を發行し全會員に配付したが内容は各有志の執筆に係る修養記事或は會員の動靜等を詳記しあり炭礦從業員にふさはしいものである。

部柳造氏の三男として生れ本縣師範學校の第二回卒業生で、其後平町の舊家種田屋に入つて嗣となり家業に専念し地方實業界に重きをなし町會議員たるに及ぶ。日本鐵道開通と同時に丸通運送店を創めた地方運送業者の重鎮で現に平運輸株式會社社長たりし人、行年六十七歳である。

肺病患者自殺

家人に傳染させるのが氣の毒で

平窪村大字中平窪農業大和田數馬妻大和田カヨ(三七)は久しを患へた。日午後一時頃隣居屋に入り縊死を遂げた。

自動車事故頻發

營業中止中の運轉手

小名濱町、小名濱江名間聯合自平間聯合自動車運轉手小針俊秋が運轉し二日午後一時頃江名町内郷村大字御厩地内を進行中遊戯中の水野三郎(六ツ)を轢き重傷を負はせたので平署で取調中。二男片次郎(十三)に衝突し次郎は是に至治三週間を要する重傷を負ふたが、運轉者は過般事故を起したため營業中止を命ぜられてゐたものである。

古物商に賣る

湯本町三國磐城炭礦坑坑電工稲田市之丞(四五)は十一月中級坑電工詰所内に置いた銅線十貫匁程を窃取し之を湯本町古物商に賣却した事發覺平署に捕はる。

銅線を盗み

湯本町三國磐城炭礦坑坑電工稲田市之丞(四五)は十一月中級坑電工詰所内に置いた銅線十貫匁程を窃取し之を湯本町古物商に賣却した事發覺平署に捕はる。

腰巻を盗む

磐崎村大字上湯谷字力石小野田炭礦運搬夫後藤壽直(三三)は二日午後四時頃平町字鍛冶町料理店裏樂事熊谷ナツ方酌師佐々木トク所有の腰巻一枚を窃取して平署に捕はれた。

酌師の腰巻を盗む

磐崎村大字上湯谷字力石小野田炭礦運搬夫後藤壽直(三三)は二日午後四時頃平町字鍛冶町料理店裏樂事熊谷ナツ方酌師佐々木トク所有の腰巻一枚を窃取して平署に捕はれた。

珍らしい大鷹

六日午後一時頃内郷村大字白水朝鮮炭礦坑坑佐藤藤作が湯の嶽の麓に行つた處熊鷹が居るのを發見したので後方から之を取り押へた。持ち歸つて調べた處左翼に鐵砲の傷あり翼の長さ約十尺、体重三貫匁といふ大鷹に似てゐる。鷹の體長約十尺、体重三貫匁といふ大鷹に似てゐる。鷹の體長約十尺、体重三貫匁といふ大鷹に似てゐる。

毎朝五時起床して清水を飲むて自分の齡を數へそれだけ飲むと忽ち其の効果が現れ身体は健康となり身代の苦しいのがやほ財は忽ち無くなり労働が楽しくなつて何の不事もなく暮らす様になるといふので形のない此の靈藥を造るので大山技師も苦心をかきね、前記の如き調劑書を配布し、それに依つて各自が調劑して服用する様獎勵する由である。

この調劑、使用方法、効用を印刷物にして郡内各農家が見物人へ人山を築いてゐる。配布することになつた、調劑方法は▲朝起十匁▲労働十匁▲人情八匁▲忍耐十匁▲工日▲分別鉢にいれて忍耐▲湯にかけ粉末にし清水で練り丸薬にし使用方法はつてゐる。

つてはこの方面に對して因はれたる趣味を有する親兄弟に對しては結果子供に於てはまじき情事の概念を説く或は見せきへはらゝする様な争闘のまね事をするなどよつて來る弊害は寧ろ他地方以上甚だしいものがある。これが矯正に就いては各家庭が戒心の營業者の營業妨害に及らざる限り相當考慮を要する處である。年女子の映畫見物に無關心なのは世界中で日本あるのみである。ドイツでは十八歳未満のものには法律を以て非教育映畫を見せぬ事になつてを

活動寫真映畫の注意
平町には現在二ヶ所の劇場及活動寫真館を有し而も劇場中の一ヶ所においては往々活動寫真を興行する事があるので平町における活動寫真は時に三館鼎立の競争を見る場合少なくないに拘らず何れも相當の收入を以てゐる。現在約二萬六千の人口に比し銀行休業がどうの、炭礦の不景氣がどうのといった處で、平町にのみ見る他方面とは異なつた一種の享樂的能力を多分に有する

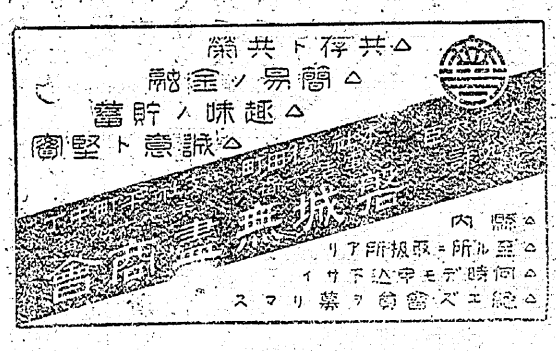
西洋料理の拵方

イワキ食堂主
森川泰一郎

(六)
カレーソース
材料十人前に付

大匙三杯
同四杯
小匙四杯
四合
小量
少量

鐵鍋にバター大匙三杯を溶かした中へ、カレー粉小匙四杯



を加えて、いためたつ、メリケ
ン粉大匙を加えて更にいた
め、上等のスープを入れ鹽に
て味付けをし、此時漏神漬等の
搾汁を加へ、六七分間煮て仕
上げます。

此手續に推へたカレーソ
スは此儘にても充分に美味し
く、煮過ぎが、更に獸肉、鳥
肉、淺鯛、野菜等種々の主要
物を混加しますと、一層結構
に戴けます。そして出来上り
ましたカレーを食皿に盛つた
飯に掛けるか、又はカレーを
御飯を別々の器に入れ、食皿
を添へて供します。

都々逸

「洋服は着よく丈夫で一般むき
は品質本位の正札堂」
甲乙の社員が或る會社のテーブ
ルを圍んで

甲「いや君此の頃の不景氣には
困つたね……」
乙「ウーン全く困るね、銀行は
閉門だし」
甲「時に君馬鹿に良い洋服をお
ごつたじやないか、何處で新
調したんだね、色も素敵だな
あ、生地も」
乙「ウーンこれか、それは君も
知つてゐる正札堂さ」
甲「あ、ア、停車場通りの」
乙「そ、だ、兎に角正札堂は平町
で一番評判はいいからね」
甲「全くだよ……評判のよい事
驚くね、どうしてだらう」
乙「それは君都々逸にも
「洋服は品質本位の正札堂が
着よく丈夫で誰も好く」
とある様に品が良く價が安い
からだよ」
甲「成る程君は素敵だ都々逸を
知つてゐるね」
乙「ア、ア、ア、正札堂に限る
よ、ア、ア、ア、」
甲「ア、ア、ア、」

日七日より
特作優秀映畫公開

▲他の追従を許さず、新進の
革命的營業振を見よ

▲大帝キネ特作 渡邊新太郎
監督作品 松本三郎、實
川延松、久野あかね大共演

▲仇討宿 魂 全七
命奇談

▲大帝キネ特作 松本英一監
督作品 ◎明治文壇の巨頭
菊池幽芳先生 原作歌川八
重子、千草香子、櫻川清、
藤間林太郎共演

▲現代連續 乳姉妹 後
大悲剧 乳姉妹 後
▲ビーデーショー映畫
關將ハリ・ケリー氏 驚天
動地の大活躍

▲西 部 鐵 路 七 轟 轟
全七卷

▲マキノ 勝見プロ第九回作品
原作西條章太郎、監督勝見
正義 金看板甚九郎異聞

▲雁の道 全八
土日學生子料金特に普通
帝キネ
マキノ

正札堂

預金の賣買を致します

▼賣買の手續は無料で致します

平町 仲田町

駒場株式会社

電話四六五番

内科 小兒科 入院應需

藤沼醫院

平町 紺屋町
電話平五〇七番

福島縣平町
山崎合名會社

電話(營業部専用)一〇番
電話(一般用)二七番
振替東京一九七五五番

上野車坂四三三
東京支店
電話(下谷)五七二二番
振替東京六八三二二番

良品質賣に勝る商略なし!!!
磐城セメント會社特約店

和洋銅鐵
金物問屋

釜屋商店

磐城平 電話一九三九番

確實敏捷は(丸)の生命なり!!!

不思議な靈効を有する
まじむしのエキス

養命酒 半ヶ月分一・五〇
一ヶ月分二・〇〇
甘味にして頗る芳香飲み易し眞に補血強壯劑の高級品也

代理店 平町五丁目角
山野邊藥局

二葉印刷所

平町 字 仲町
電話七三四番

外科 専門

X光線科

上田外科醫院
電話一二九番

ツルヤ商店の
七五三御祝子供デー

洋 服 ラジャオーバー
マント各種 襟 巻
帽 子 チョッキ

色々陳列致しましたからどうぞ御覽下さい

平町 電話四十四番
ツルヤ商店

父乙三郎儀病氣の處療養
不相叶本月四日午後一時死去
致候間此段御通知申上候也

追而葬儀は來る九日午後一時自宅出棺性
源寺に於て佛式に依り相替み申し候

十二月七日
福島縣平町 搦槌小路
男 阿部政右衛門

當社社長阿部乙三郎儀東京南
胃腸病院に於て病氣加療中の
處藥石効なく去る四日午後一
時死去仕候此段謹告候也

追而葬儀は九日午後一時自宅出棺性源寺
に於て佛式執行可仕候

十二月七日
平運輸株式會社